

【龍野の細部デザイン】

屋根

龍野において、きんがわら 棧瓦の登場は明治初期であり、それまでは本瓦が主流でした。当時の本瓦を今なお残す町家は、概ね江戸後期から明治初期までの建築であると推察できます。



本瓦



棧瓦

虫籠窓 (むしこまど)

めりごめ 漆喰で塗籠られた窓のことを虫籠窓と言ひ、高さを抑えたツシ2階に、通風や明かり取りを目的として設けられました。龍野では、木瓜型と呼ばれる虫籠窓を設けた町家も見られ、外壁のアクセントとなっています。



木瓜型



木瓜型



矩形型



矩形型

ガラス窓

大正から昭和にかけて、小さなガラスを割付デザインして木枠にはめ込んだガラス窓が登場しました。「たふくまど お多福窓」と呼ばれます。



袖卯建 (そでうだつ)

隣家からの延焼を防ぐ目的や屋根伝いによる侵入を防ぐための役割があり、装飾的な意味合いもあります。



持送り・腕木 (もちおくり・うでぎ)

壁や柱に取り付けて、庇や梁などの突出部を支える横材のことです。直角三角形に似た形状のものを持送りと言ひ、一本棒状のものを腕木と言います。



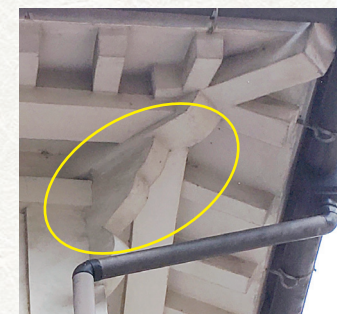
道路拡幅のため、軒切りされて出幅が短くなった持送り



腕木



腕木



持送り



持送り

駒寄 (こまよせ)

本来は、馬や牛を繋ぎ止めておくためのものであったと言ひますが、今日では、軒下に人や犬が立ち入ることを防ぐために設けられています。龍野では、削り痕を残す日本古来からの加工技術である名栗(なぐり)仕上げのものが見られます。



軒蛇腹 (のきじゃばら)

龍野の町家には、2階軒裏が複雑な曲線(繰型)でデザインされたものが多く、階段状のものや円弧を描いた洋風のものまで、多彩なデザインを見ることができます。



階段状の軒蛇腹



円弧を描いた洋風の軒蛇腹

